

平成16年度

## 三センター共同研究事業

<痴呆ケアにおけるリスクマネジメントに関する研究>

認知症介護研究・研修東京センター

認知症介護研究・研修仙台センター

認知症介護研究・研修大府センター

<はじめに>

病院・診療所などにおける事故（主として医療事故）と介護施設などにおける事故（主として介護事故）とを比較すると、本質的に異なる点と共通する点とがある。相異点は、前者が手術、点滴・注射などの薬物投与、検査の一部などの人体への直接侵襲との関連する点であり、共通する点は、転倒・転落、誤嚥、異食、入浴関連事故、徘徊関連事故、感染、などである。これら以外にも自殺、不審死、交通事故、盗難、火事、などがある。

病院・施設・家庭などでは、これらの事故を予測し、防止または回避すること、即ち、予防することは一番重要である。最近では、リスク・マネジメントといわれることが多い。これには、予防以外に、事故発生後の対応も入り、病人の立場に立った迅速で、誠実な対応が必須である。

防止策では、事故の情報収集・報告体制、安全対策マニュアルの作成と徹底、現場職員の意識改革、労働条件の改善、リスク・マネジメント教育、などであるが、何よりも常に病人のことを個別に念頭においてケアをしていれば、大半の事故は、防止できると考えられる。即ち、職員の意識が問題である。

最近、身体拘束廃止が叫ばれていて、施設によっては、どんな場合も拘束をしないとしているが、これは行き過ぎの場合もあり、介護における一種のパターンリズムである。例えば、本人に未だ判断能力があり、自分で危険を感じて車椅子への固定を希望しているのに、それもしなくて転倒を招いたりすれば、これは人災である。また 妄想念慮で不安が強い場合、他人から隔離を希望することがあるが、この場合は 本人の同意書を得て、隔離するのが、自己決定権の尊重になる。このように、基本原則は、身体拘束廃止は当然のことであるが、あくまでも施設のモットーやスローガンよりも、「個別ケア」を最優先すべきである。

3 センターの共通研究課題として取り組んで 3 年となり、一定の成果が上がった「認知症ケアにおけるリスク・マネジメント」を報告し、この結果が 広く関連機関・施設で利用されることを希望するものである。

最後に、リスク・マネジメントにおいても、ご本人の意思に沿った「個別ケア」の精神が重要であることを強調したい。

平成 17 年 3 月

認知症介護研究・研修大府センター

センター長 柴山 漢人

## 目 次

三センター共同研究事業を終えて…………… 1

### 平成 16 年度研究成果

・痴呆ケアのリスクマネジメントの啓発普及に関する研究事業…………… 3

1) 東京センター報告書…………… 5

・認知症高齢者の転倒事故の要因とリスク評価にもとづく事故防止策の研究

分担研究者 須貝佑一 (認知症介護研究・研修東京センター)

研究協力者 小林奈美 (鹿児島大学医学部)

2) 仙台センター報告書…………… 21

・認知症ケアにおけるリスクマネジメントの研究—認知症高齢者グループホームにおけるリスクマネジメントシステムの普及に関する研究—

主任研究者 阿部哲也 (認知症介護研究・研修仙台センター)

研究委員 加藤伸司 (認知症介護研究・研修仙台センター)、大久保幸積 (社会福祉法人 幸清会 幸豊ハイツ)、武田純子 (グループホーム福寿荘)、宮崎直人 (グループホームアウル)、喜井茂雅 (ぐるうぷほうむ3丁目)、蓬田隆子 (グループホームこもればの家)

3) 大府センター報告書…………… 29

・痴呆ケアのリスクマネジメントと対応—医療および介護において—

A) 認知症高齢者における摂食・嚥下障害対策指針作成に関する研究

主任研究者 長屋政博 (国立長寿医療センター病院 骨・関節機能訓練科)

研究協力者 金子康彦 (国立長寿医療センター)、中澤 信 (国立長寿医療センター リハビリテーション科)

B) 認知症高齢者のリスク要因に関する研究

主任研究者 南 美知子 (国立長寿医療センター)

分担研究者 鈴木奈緒子 (国立長寿医療センター)、市川綾子 (国立長寿医療センター)

研究協力者 原田孝子 (国立長寿医療センター)、佐々木千佳子 (国立長寿医療センター)

C) IT 介護機器を利用した情報管理に関する研究

主任研究者 宮尾 克 (名古屋大学情報連携基盤センター)  
分担研究者 時田 純、永島 隆 ((社福)潤生園)、大森正子 (名古屋大学)、後藤真澄 (中部学院大学)、福田博美 (愛知教育大学)、渡辺智之、小長谷陽子、柴山漢人 (認知症介護研究・研修大府センター)、水野 裕 (一宮市民病院今伊勢分院)  
研究協力者 藤掛和広 (名古屋大学)、長谷川聡 (名古屋文理大学)、北川清治、中島義英 (オリンパスシステム)、岡本健治 (富士データシステム)

D) 認知症ケアにおけるリスクマネジメント～認知症の疾患別のリスク評価に関する研究～

主任研究者 伊苅弘之 (医療法人さわらび会福祉村病院)  
分担研究者 小阪憲司、山本孝之 (医療法人さわらび会)、  
研究協力者 山本淑子 (医療法人さわらび会福祉村病院)、笠原祐子 (医療法人さわらび会福祉村病院)、二村なつえ (医療法人さわらび会福祉村病院)、白井美代子 (医療法人さわらび会福祉村病院)、柴田浩文 (医療法人さわらび会福祉村病院)

E) 徘徊への対応の現状と課題

主任研究者 杉村公也 (名古屋大学医学部保健学科)  
分担研究者 田川義勝 (名古屋大学医学部保健学科)  
研究協力者 後藤真也 (名古屋大学医学部保健学科)

F) 痴呆ケアにおけるリスクマネジメントに関する研究～AMPS による施設ケアのリスク判定～

主任研究者 杉村公也 (名古屋大学医学部保健学科作業療法学専攻)  
分担研究者 森 明子 (名古屋大学医学部保健学科作業療法学専攻)  
研究協力者 白石成明 (小山田記念温泉病院)  
安藤一也 (介護老人保健施設ルミナス大府)、菱田 愛 (介護老人保健施設ルミナス大府)、小酒部聡江 (介護老人保健施設ルミナス大府)、縣 さおり (介護老人保健施設ルミナス大府)、小長谷陽子 (認知症介護研究・研修大府センター)

4) 資料